慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	雑誌「史潮」の發刊
Sub Title	
Author	淺子, 勝二郎(Asako, Shojiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1931
Jtitle	史学 Vol.10, No.1 (1931. 3) ,p.154- 154
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19310300-0154

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

長谷川角川は天文十年正月肥前國長崎に生れ、元祿元年（永祿元年の誤なるは勿論）十八歳にして父左近の志を襲いで家を出で云々

の如きはその最も甚しきものである。出版者の良心、否著者の名譽のために再版の訂正を待つ。（四六判本文百四十四頁、定價壹圓貳拾錢）（淺子勝二郎）

雜誌「史潮」の發刊

從來の「史學」「史學雜誌」「史學研究」「史林」「史苑」「史淵」「國史學」「經濟史研究」に加へて、今度東京文理科大學史學研究室を中心とする大塚史學會から「史潮」が發刊されるやうになつた。本誌は研究、書評及紹介、彙報の三欄に分たれ、研究欄には中山久四郎（清朝考證の學風と近世日本）、齋藤斐章（時代の背景を異にせるビスマルクとストレーゼマン）、有高巖（支那に於ける地方自治の由來）、松本信廣（笑ひの祭儀と神話）、松本彦次郎（日本近世文藝復興期の序論）、中川一男（フランスに於ける經濟社會史の發達）の諸氏が執筆されてゐる。又彙報欄は、史學界潮向、史學界近事、學内消息を含み、書評及紹介欄と合せて五十頁、あらゆる方面から斯學會の近況を報告するに多大の苦心が拂はれてゐる。本欄はやがて本誌の特徴の一つともなるであらう。吾人は本誌の健全なる發達を祈ると共に、相提携して斯學の進歩のために力めなければならぬ。

因て本誌は年三回の發行、會費は貳圓と期く。（淺子勝二郎）

「夢殿」

これは美術と信仰誌と題して、（本誌はその第一册）佐伯啓造氏に依て法隆寺鵤故鄕社から發行される雜誌である。今左にその内容の簡單なる紹介を試みることとする。

先づ、谷本富氏は「夢殿と日本佛敎」と題して、法隆寺の夢殿は一面聖德太子の三經義疏御製作の本據ともいふべきところであり、一面太子が入定觀念乃至稱名に依て、早くもそこに他日淨土門興隆の種子を蒔かれたところだともいへるとし、佐伯良謙師は「夢殿と聖德太子」と題して、

太子の夢殿入定は、佛典研究が中心でありとすれば、玆にその太代が研究せられし佛典の内容を考査し又た太子が如何に之を時子思想の上に應用されしやと云ふことを論ずるは、啻に本篇の主題たるのみならず、又た太子思想の研究の中心たるものでなければならぬ（傍點筆者）

とし、勝鬘經及び勝鬘經義疏、維摩經及び維摩經義疏、法華經及び法華經義疏の内容を研討せられ、又橋本凝胤師は「佛敎敎理史上より見たる太子と夢殿」に於て、太子當時の支那六朝の佛敎は朝鮮半島を經て我國に傳へられたものであるとし、飛鳥朝殊に推古朝を中心とした當時の佛敎は少くとも支那佛敎として輸入されたものであるとして、太子の御信仰佛敎を考察し、次に岸熊吉氏は「夢殿の建築」に於て、修補は屢々施されたやうであるが、建築の構造形式に迄變改を加へたと認められるものは、建久四年の天井新造、寛喜二年の桁一重鵤居一重加增、幷に文曆二年の石壇